第廿九號　岐蘇林友　（一）

明治四十四年八月十四日第三種郵便物認可

岐蘇林友

明治四十五年三月二十三日印刷
明治四十五年三月二十五日發行
（定價三錢）
編纂兼發行人　長野縣西筑摩郡福嶋町四〇四番地　安井正夫
印刷者　長野縣松本市本町百八拾四番地　兎澤忠雄
印刷所　仝縣仝市仝番地　交文社
發行所　長野縣西筑摩郡福嶋町二八九番地　蘆澤書店

○岐蘇林友目次

○論說　輪伐期は信じ得べきか
公有林野の整理に就て
農村の娯樂としての木曾節
北米合衆國に於ける製紙原料
竹類開花の原因
○學術
○拔萃
林野行政事務概要、佐渡の林業
櫻花小觀。追懷。隨感。
○文苑
○通信　長野縣より
學校記事。假任辭令。編輯局より
○雜報

論說

輪伐期は信じ得べきか

江波多

近時森林經理學の根底に動搖を來し本多博士著造林學に於て『シュンヘン』大學教授『マイヤアー』氏の說を揭げて曰はく現今森林經理家が森林を天然法則によらずして唯殆ど幾何學的に森林區劃をなし且恣に樹種の撰定更新の方法等を規定せる者多く是等誤れる經理の害毒は造林上に無經驗なる官吏によりて其誤謬を層一層甚しからしめ森林家を森林より遠け造林事業を單調ならしむるが如き潮流を生すと今又澳國林獵雜誌一月號に『ヨハネス、グリユウナウ』氏が輪伐期は何の爲めに用ゆるか又伐期は必要なるも誰人も現在の狀態に滿足せずとの題目の下に大なる論評を下せり余輩は諸大家の警醒に對して大なる滿足を拂ふに慣ならざると同時に森林經理學の學理が深遠にして研究の余地夥多なるを窃に喜ぶ者なり今茲に同氏の說を極めて平易に且之を敷衍して其大要を紹介せん

由來米麥其他の農作物には自から成熟の時期一定し播種してより數ケ月若くは數年にして成熟の狀態が外部に現出し人をして其採收を促がすの觀あり故に栽培者は之を見て適當なる季節に收獲するを以て何等の考慮を費さず極めて單純なるも樹木は然らず茲に杉檜の一例を以てせしに二十年生にして伐採して以て洗丸汰となし建築用たり得べく三十年にして能く柱料となし得へく五十年生にして柱或は板材たり得べく八九十年生若くは百數十年生たるも亦其用途愈々多し即ち如何なる時期に伐採するも相當收益を得べく且農作物の如く天然の成熟期は之を豫想する事能はざるなり假令生長に遲緩あるも年を閱するに從ひ益々其形態を增大するのみ臺灣阿里山に於ける三千歲の星霜を經たる扁柏の如き蓋し好適例なるべし斯くの如く林木は其成立後十數年を經れば如何なる時期に伐採利用するも其用途は極めて多し然かるに林木には地代、蓄積、造林、保護管理費等を要し又十數年にして間收入あり最後に伐期收入あり故に此等の經濟關係を最も都合能く調節して最大純益を得べき時期に於て伐採收穫せざるべからず即ち間收入及伐期收入と之に要せし造林其他凡百の支出の各々に利子を算入して彼我差引をなせる純收入が伐期毎に永久繰返さるゝ者を商價に換算したる數式によりて輪伐期を比較選定する方法を財政的輪伐期と稱し（必要に應じ、地代蓄積等を揭入す）輪伐期選定の方法即第一自然的輪伐期、第二工藝的輪伐期、第三材積最多輪伐期、第四林貢租最多輪伐期の內最も精確なる者となせり叙上第三第四及財政的輪伐期は何れも數式に實驗數を代用して其最大なる數に相當する時期を以て輪伐期となす者なり抑も輪伐期は齡級の配置を法正狀態に導き又年伐面積を算出して收獲を豫定し事業上の施設計劃をなすべき唯一の因子にして換言すれば輪伐期は森林施業上の基礎にして之によりて森林の利用を保續的ならしむる要素なり從ひて森林經理學者は之が撰定に最も艱難を感ずる所以にして多くは曖昧の間に看過せらるゝ事多しとす

次に叙上の法式は稍法正狀態に近き森林を想定して諸因子を求むるにあるも一年生より伐期に至る凡ての齡次を備ふる林分は容易に望む能はざるのみならず假令斯る森林

を造成したりとするも立地の關係殊に森林の取扱如何茲に自然的の影響の異なるに從ひて林分の生長に著しき等差を生ずるを以て森林蓄積の計算の如き無意味なる場合多し而して最も重きをなされつゝある財政的輪伐期算出に用ゆる諸因子の精密度に就きて考ふるに

第一、法正蓄積の計算は森林經理學に於て學ぶ所なり而かも叙上の如く現實の森林に對しては應用に疑問あるのみならず更に之を金員收獲に換算するには如何なる方法によるべきか殊に單位材積に對する價格の標準を決定するは蓋し至難の事なり況んや或場合には數十百年後に於ける事項を豫定するに於てをや且伐期收獲は財政的輪伐期を選定するに重大なる關係を及ぼす者にして從ひて材積及單價の僅少なる相違によりて直ちに伐期を左右し又前収入は伐期收入に次ぎて大影響を與ふる者にして間伐時期の遲速及度數によりて更に材價に依りて伐期を著しく低下し或は上昇せしむ換言すれば單價、材積及間伐時期の僅少の差違によりて伐期を左右する事夥しき者なり

第二、連年の支出例へば管理費租税の如きは財政的輪伐期に何等の影響を與ふることなきも造林費、伐木費の如き定期に支出を要する者は其額多きに從ひて輪伐期を高からしむるも其影響は前者の如くならず

第三、次に利率の高低は財政的輪伐期に著しき影響を及ぼす者にして利率低き時は伐期を著しく高め又反對に利率の上昇にする從ひて伐期を低下に試に『ユーダイヒ』氏著によりて利率の高低が如何に財政的輪伐期を左右するかの一例を茲に掲ぐれば次の如し

利率	伐期
二分五厘	九十五年
三分	九十年
三分五厘	八十五年
四分	七十年

にして利率の高きに從ひて急激に輪伐期を降下せしむ然かも林業利率は普通經濟的利率より小なるを以て滿足せざるべからざるは論を俟たざれども經濟的利率は社會百般の情狀によりて變動し一定せざる者なれば彼の林學者が我國に於ける林業利率を五分と評定せるが如き根據ある學說上に基きたる結果にあらざるなり既に斯くの如し財政的輪伐期は木材の單價の相違によりて伐期及間伐收獲の差により間伐時期の遲速によりて而して利率評定の如何によりて著しく伐期を高下せしむ而かも叙上の因子は其標準を定むる事極めて難難なり算出するに至難なる要素を以て森林施業上の基礎を確立せんとする亦難い哉

公有林野の整理と公共的精神の必要につきて

小松吉次郎

近年公有林野の統一を緊急の事業とし官民共に此業に熱誠を注ぎ一日も速に其實を擧けんとせり荒廢殆ど其極に達せる公有林野而も其面積廣大なるに至りては經濟上國土保安上決して現狀の儘に放置すべからざるは明白の理なれば此機を逸せず整理することと必要なり

而して其整理の要に曰く各部落住民の自由無制限の入會を嚴禁し或は制限し林野の分割を禁じて統一し部落は町村に寄附し町村は自治團体の基本財産として此に町村林を設け造林を行ひ一は富源を永遠に傳へ一は荒廢の現狀を救ふにありと、誠に慶賀すべき福音にして速に其緒につかんことを切望す、顧ふに林業か其効果を數十年の後に收むるを以て町村林の經營と同時に一般住民が此を愛護する所謂公共的精神の進歩發達の之れに伴ふ事最も肝要なることとす否らされば、毎年莫大の資本と勞力を投じて漸く成功の曙光を見るに至り忽ち烏有に歸せしむること少からず元來部落が永年共有したる入會の特權は公有林野の統一と共に消滅し多數の者は損失の痛傷を感じ假令或程度の賠償を與ふるとも決して全く此習慣的利益の破失に對する感情を根絶せしむること能はざるは尚ほ木曾御料林に盜伐の絶えざるが如し、されば統一の根底に於て部落住民との間に利害の關係を異にするを以て一朝成立したる町村林に對し自己の森林に於けるか如き注意を拂はざるは勿論にして町村林保護上危險の少からざるを見るべし故に部落全般に公共財産を相愛する精神即ち自己の利害を顧みず犧牲的精神を以て町村林に對する習慣を今日より養成すべく心掛けざるべからず統一を計畫し誘導する者は勿論各部落が入會を放棄するときに既に其心を以て統一を助けざるべからず抑も森林に於ける諸害中最も恐るべきものは火災なるべし彼の公有林野が今日の狀態に陷りたるも亦火災の結果たりと云ふべし即ち些細なる副產物と得んとして巨萬の富を灰燼になしつゝありしなり此習慣は山火事を以て大事と思はず從て火を粗末にし失火を引起すの原因となるを以て町村林成立の曉に至りて危險極まれり多年の努力經營の効を水泡と化すべし近年東筑摩郡本郷村有林内扇柏林を烏有に歸せしめたる實例あり此の如く火を粗末になす習慣特に山林原野に於て亂に炊き火をなす惡習は暴慢町村林に對する公共的精神の缺乏に因るものにして町村林も亦自己の財產と心得愛護するの精神だにあらば決して災害を招かざるべし見よ吉野郡川上村の或一部落戸數十餘戸の一小部落に先年小兒の弄火より失火し强風の爲に隣近の杉林に延燒せしことありき附近の杉林は勿論他人の森林なりしが地元住民は自己の住み馴れし家宅の燒失を顧みず延燒せる森林を保護消火しければ幸に杉林には大害なく僅々數十本の類燒に止りしかど家屋は全部燒棄せり嗚呼盛なる犧牲的公共的精神ならずや日沒して宿るべき弊屋だになく明日より使用すべき家具家財なく不自由不便眼前に迫れるにも不係他人の森林火災を防き其効果を大ならしめき此の如き公共的精神に富める町村住民に愛護せられて初めて町村林の經營も安全なるべし其他苗木の植付に際し下草の刈拂に當り枝打又は間伐に就き中心より公共の利益を重すると否とは如何に重大の關係を町村林に及すかを、即ち町村林の成不成は一に住民此精神の强弱有無によりて支配すと云はざるべからず天龍川沿岸の造林事業は輓近の發展にして火災に對する注意怠らず沿道至る所一町二町の距離に必す一本の燐寸は數万の財を燒くべし或は喫烟を禁す或は火の用心等の立札を見ざる所なしこれ地方人民ま森林を愛護する念に富むを知ると同時に遠近の行路者に公共的精神を皷吹せるものと見ることを得

故に公有林野の統一をして其美果を得んとせば廣く森林を愛護する精神を養ひ町村林に對する事恰も自已の森林に於るが如く深刻ならしめんこと最も肝要なり更に聞く地方によりては森林盜伐を以て重大なる破廉恥罪と見ずと此の如き地方によりては町村林の造成は實に盜伐者に幸するの愚に陷るものなりされば公有林野の整理と共に公共的精神を涵養するの適當なる方法を撰び常に人心を誘導するを林野の統一と同時に欠くべからざることなり

農村の娯樂としての木曾節

田夫野人生

兇惡獰猛なる亞弗利加蠻族も歌へば文明開化の『アングロサクソン』人種も男女共に一堂に會し舞踏を演ずるが如く歌舞音曲を好むは人類の通有性なり然るに世に動もすれば從來の歌謠音曲の淫靡なるの故を以て農村より之れを取り去らんとするものあり之れ敢て一概に不可なりとは云ふを得ざるも亦決して策の上なるものにあらず若し惡しきのあらば要は之れを改良すべきにあるのみ農業を捨てゝ都會に轉ずるもの益々多きを加ふるは農村に適當なる娯樂なき又一因とせざるべからず此れが爲め又小人閑居して心の駒が狂ひ出し農村に惡風を殘すにあらずや面白き休日の娯樂は惡事を考へる餘裕無く娯樂によりて農村の趣味了解せられしならんには何を苦しんで住み慣れ故郷を棄てんや農村の青年は今や娯樂に飢へつゝあり此れに於て農村繁榮策の一とし農村に適當なる娯樂を興ふるは尤も緊要なる事に屬す然らは如何なる娯樂を與ふるかは重要たるも大体可成的多數の青年相共に樂しむるが如きものを以て至當とす

斯くして多人數相共に樂しむ事とならば其氣合自ら一致を來たし茲に於て同心協力の美德の精神を養ふのみならず娯樂其れ自身も亦一層の多きを加ふるに至らん

然れ共尚娯樂は大体次の如き標準によりて選ぶを可とすべきか

一、直接自已の產業に利益ならざるも間接に効果を擧げ得べきもの

二、善良なる習慣風俗に戻らざるもの

三、團体的遊戯にして自他の間に娯樂上の利害の相反することなきもの

四、永く時間を空費するもの又は肉体的精神的惡影響を及ぼすが如きものたらざること

五、何人にても入り易く行ひ易く心安く面白きもの

六、日常の仕事と趣きを異にし過劇の爲め却つて疲勞を來たすが如きものたらざること

七、淫靡に陷り易き歌謠等無く愛鄉心を起さしむる如きものたること

以上此等の音味に於て此の木遣歌（或人は之れを氣合歌と云ふ可とすと云ふものあり）の如き小なる力を大にするには此『キヤリウタ』調子に據るを意味し即ち共同一致の精神の涵養となる之適當なる娯樂の一ならんか

余未だ深く木曾節を究めず又充分なる眞價を知る者にあらず或は皮相の感あるやの如きも大体に於て木曾節を以て農村繁榮策の一助たる農村の適當なる娯樂なりと信ず今少しく木曾節に付きて一言を述べん

抑も木曾節の起源は不明なるも遠き昔より尤も古き歴史を有する木曾の伐木運材の作業勞働者によりて始まりしと聞く宜なり斯の木曾節の歌舞を演ずる者を見るに古來林業勞働者の用ひ來たりし雪袴即ち俗に云ふ

『カルサム』（カルサムなる語の依つて來たる所以を知らざるも之れが研究は趣味且つ價値あることならん）を身に穿つを即ち木曾古來の質朴勤勉なる風俗を傳ふるに於て餘りあることならんか俗謠に耳を傾くれば餘韻嫋々御岳の秀靈夏尙寒きを歌ひ續いて人情の極美たる仁慈心を詠じ或は木曾の奇林豐富を述べ五木を誇り或は曾溪の山水明媚を曰ふ即ち木曾谷の天の與へたる崇高なる天地自然の美景を賞し都市人の夢想し得さることを告げ居るにあらずや又彼等が舞ふに當つては星々戴きて隴頭山間に出て孜々として一日を勞し薄暮月を踏んで歸る日常の勞苦を知らず識らず和氣藹々たる中に忘るるにあらずや且つ又此の團体的舞踏は共同一致の志想の修養となるにあらずやかく論じ來れば其効果多々あるも要するに吾人は結論として木曾節其者に對し何等の批難すべき点あるを認めず只其の使用の如何によりて善良なる娯樂ともなり不良なる娯樂ともなるのみ

乞ふ此の歴史ある木曾節を以て斯の職業婦に亂用するが如き或は耽溺夜を徹し惡風を釀さしむるが如きこと無からしめよ而して永久に健全なる木曾谷農村の娯樂と爲さしめよ

學術

北米合衆國に於ける製紙原料

七宮生

紙は文明の測度計なり紙の消費高により其國文明の度を知るを得と吾國に於ても年々其消費高を增加しつゝあり即ち明治二十七年には製紙産額僅かに四千二百三十七萬封度なりしが明治三十六年には一億千二百五萬封度に達し僅々十年間に三倍の增加をなしたるを以て現今は優に三億封度を超過せることを推測するに難からざるべし而して紙を楮の皮より製する時代は已に既に過ぎ去り外國にては一八四五年獨逸聯邦サクセン國の人ケルレル氏木材を粉碎して紙を製することを發見して以來製紙業に一新生面を開き世界に於ける製紙原料の最大部分は木材を利用するに至れり吾國に於ては明治七年有恒社落成し初めて洋式製紙工場を設置せり最初は專ら襤褸のみを使用せしが漸々襤褸に絹を含むこと多く紙となす以前に之れを除去せざるべからざるを以て木材紙料を用ふるに至り木材を消費すること甚だしく殊に亞硫酸法の發明以來頓に激增し世界各國共に漸く之れが前途を悲觀する者あるに至れり今是れに對しシー、ダブルユー、ライマン氏の一月號保護貿易雜誌上に述べし所のものを摘譯せん

古代編史學者の說によれば耶蘇記元八十年頃羅馬にて紙草拂庭の爲め當時の著述家は非常なる恐慌を來たし大に動亂せることありと云ふ現今合衆國に於ても製紙原料不充分なる爲め或一部の人々は大に憂慮するに至れり

註曰）紙草は埃及に普通なる蘆に似たる優美なる水生植物にして大なる莖の髓を細き片に切斷し之れを壓し種々のものを記載し或は卷となし或は冊となす現今存在するも古き標本は殆んど耶蘇紀元前二千五百年のものなりと云ふ

木材より製らぬ紙は尙四十

『バーセント』あり

殆んど凡ての紙は木材より製するを以て原料を欠乏し紙價を斯く暴騰せしめたりとの意見を有するものあらん一九〇九年合衆國々勢調査に依れば同年の産額は殆んど四百二十萬噸にして就中襤褸反古紙マニラ纖維藁及木材以外の他の材料より製するもの四〇％を占む而して少なからず是等材料は製紙用として木材パルプと競爭して輸入す而して是等は廉價なるを以て相當使用せらるべし故に製紙原料は一般にパルプ材の獨占にあらずして是れが使用並に價格は一部分襤褸藁及其他神々の原料により定まる而して一切本材よりのみ製する唯一の種類は新聞紙用にして全生産額の二八％即ち百六十萬コード（一コードは百二十八立方呎）のパルプ材を要す是れ總パルプ材四百萬コードの四〇％に相當し木材の他の六〇％は新聞紙用以外の製低高七二％の大部分の製作に他の原料と直接競爭するなり

製紙用樹種

一九〇九年紙の約六〇％を製るに用ひたる四百萬コードのパルプ材の内六〇％は唐檜にして二〇％は白揚、栂、松、綿樹、バルサムの木、白樅及他の種々の木材なり而して木材以外の原料がパルプ材と競爭する如く唐檜と唐檜以外の樹種と競爭し勿論適合度は考中に入れども其關係的價格に就ては非常に疑はしきものあり此の或種の材に他の種の材を代用する趨勢は一九〇〇年及一九〇九年に於て唐檜以外の樹種の消費顔を比較せば明かなり即ち一九〇〇年に於て是等樹種は二四％に過ぎざりしが一九〇九年には總パルプ材の四〇％に增加せり斯く唐檜材は一般パルプ材が他の纖維に於ける如く最早製紙場理に獨占を有せず總製紙原料中約四〇％は襤褸藁等にして二〇％は唐檜以外の樹種而して四〇％は唐檜

材なり

唐檜より製せらるゝ四〇％の紙の内眞に全然唐檜より製する唯一の種類は新聞用紙なり而して此の新聞用紙は總て唐檜より製するとすれば實に百六十萬コードを要すべし則ち唐檜の全パルプ材の殆んど六六％に當る從て殘余の三四％の唐檜は新聞用紙以外の製紙に使用せらるゝを以て實際他の樹種を廣く利用するを得

今新聞用紙は全然唐檜より製するものとし新聞用紙以外の七二％の紙は襤褸、藁、反古紙、白揚、松、栂、バルサム木等より製するとせば其供給の充分なるは確かに疑なし而して合衆國農務局の調査によれば一九〇八年合衆國に於て確かに年々三千五百萬噸の紙を充分製し得る丈けの農工業發物を出し實際是等は製紙に適當すと若し所論の如しとすれば製紙原料問題は極めて簡單に解決することを得べし

新聞紙は約二五％の化學的方法による所謂亞硫酸パルプと七五％の機械的方法による所謂本パルプより製る而して亞硫酸パルプは殆んど全く唐檜より製せしも近年栂パルサムの木松及他の種々の木材より頗る上等の亞硫酸パルプを製すること發見せられ現今四〇％は實際斯る樹種より製せらる而して此四〇％は漸々增進し遂に全く唐檜を凌駕せんことは疑問なり

合衆國に於ける唐檜の豐富

假りにパルプ材として年々百萬コードの唐檜材を要するとして是れが出所を調査せん現今合衆國にて年々百六十五萬コードの唐檜材を伐採利用するも就中六十五萬コードは其使用目的如何によりては絶對的必要を感せず他樹種により充分代用し得同樣に加奈太より輸入する八十萬コードの唐檜に付てもしかあらん合衆國に於ける唐檜の自然配布は實に廣大にして一九〇九年合衆國森林生産物と題する政府の報告によれば唐檜の梁貫及屋根板は三十三州にて生産し就中主なるものはメイン、ニューハンプシャイア、西ヴアーギニア、ワシントン、ニューヨーク、ヴエルモント、ヴアーギニア、ミネソダ及オレゴン諸州なり之れにより是れを見れば唐檜自然配布の主なるものは北東部中央北部及西北部の諸洲一團地たるの觀あり今此面積上に存する唐檜を保存せば將來如何なる時に向つても十分供給し得るは明かなり例ば平均『一エーカー』五コードとし年二％の生長量を有するとせば五千萬コードの全面積は絶えず毎年百萬コードを生産すべし現今は少なくともメイン洲に於てのみ優に此の面積此の地位を有し充分此の産額あり

唐檜材の價格は決して法外にあらず

一九〇九年凡ての目的に向つて唐檜の總伐採額中殆んど三二％はパルプ用材なり而して少なくともパルプ用材の二五％は挽伐と共に不適當なるまた廢物同樣の檜端材屈曲材及瑕瑾材なれども挽材工場とパルプ工場との間に競爭あり唐檜は最近十年間に價格に於て五〇％騰貴したりと雖ども此二重の要求に係はらず總木材價格の平均騰貴三八％、セーダーは八二、九％綿樹は七四％ヴエターン松は五八、七％騰貴せり故に此の唐檜の價格騰貴は一般木材に對しても又殆んど各他の商品に對しても敢て珍しからず而して種々の木材は各其用途を競爭するを以て或樹種が他の樹種に代用せんとする傾向は決して絶えることなし從てパルプ工場に於ても競爭を減ずることなく爲めに唐檜材の價格も法外に騰貴することなきは勿論なり是等木材同志の競爭より尙一層恐るべきものあり則ち建築諸材に對する鋼鐵及コンクリートあり薪炭材に對して石炭あり夫れ故斧よりも恐ろしと云はるゝかの森林火災の防止及森林取扱の保存的方法も亦た木材の將來の供給及今後のパルプ材の保護上蓋し必要なる因子なるべし

製紙家は木材地を所有し其取扱は殆んど必らず保存的なり萬國製紙會社は之れが具體的實例にして該會社は創立以來四十年間は合衆國の總ての所有地に於て生長過量ならざる處にては毎年の伐採量毎『エーカー』十二分の二コード以下なり故にメイン、ニューハンプシャイア、ヴエルモント及ニューヨークの所有地に於ては現今尙ほ一八九八年に於ける位の立木を充分有す

紙價の下落

製紙家に對する眞の問題は原料の充分なる供給あるやにあらずして却つて勞働パルプ材、化學藥品機械及其他價格に入る殆んど總てのものを經續して增加するを得ば廉價なる紙を以て出版者の飽き足らぬ要求に經續して應じ得るやにあり過去十年間に種々なる方法及機械を利用し紙價を殆んど一定に保つことを得たり實際或種の紙は廉價なりき自由紙問題にて大騷動せしに係はらず新聞用紙は十年以前より其騰貴たりや

實に平均一％に達せず現今は一層變動なし則ち一八八五年に新聞用紙の標準價格は毎噸一〇〇弗一八九〇年には六〇弗一九〇〇年には四三弗而して一九一一年には四三乃至四五弗なり此最後十年間に於ては工場に於ける勞働及パルプ材の價は少なくとも五〇％其他の費目も多少騰貴せり

加奈太材の輸入

新聞用製紙家は過去十年間囂々たる輿論の爲め務めて廉價なる紙を供給せんとし加奈太より多額のパルプ材を輸入せり加奈太は實に莫大なる蓄積を有するを以て合衆國より非常に廉價なり而して同國は供給に比し需要少なく且つ地方廠は大部分の木材地を有するを以てパルプ材は呼價にて販賣す實際大抵の輸入パルプ材は民地材なるも總て官地材として有名なり或る工場にては充分自國材を使用し得るを以て自國材より僅か廉價なる加奈太材を用ひざるも可なり實際加奈太材は我パルプ材の約二〇％にして就中官地材は小部分を占むるを以て例へ加奈太にてパルプ材輸入を束縛するも民地材さで全然束縛し得るものにあらざるを以て單に官地材にのみ止まり其結果僅かに騰貴すること或はあらんも之れが爲め供給を空しうすることあらざるべし

合衆國未開發の財源

加奈太材毫も輸入せず吾市場に於て公正なる保護あらんか吾國製紙事業も森林も共に斯かる悲境に陥らざりしならん南部及西北部諸洲を通じて廣大なる森林面積は未だパルプ材に尚つて開發せられざるを以て現在自國供給を補ふに足る尚充分なる保護奬勵の下に利用し得らるゝ新樹種も決して小なからず殆んど全植物界は殊に數百種の纖維植物は凡ての種類の製紙に使用せらるべき商業上の誘因のみ期待す實に合衆國にありては原料の供給永久不絶なり合衆國に於ける總伐木額の二〇％以内はパルプ材にして尚現今加奈太地方廠の實際の奬勵金により同國にて製紙し吾新聞紙に引渡し得るを以て若し關税を拂はざるか或は吾引渡價格より廉價なるか或は勞働、原料に亞米利加を支拂ふことあらにか吾政府當局者は自國原料を欠乏すと云ふ口實の下に此製紙業を命令を以て加奈太に讓らん若しか吾國諸工業の半は滅却せん

拔萃

竹類開花の原因に就て

其三　（山林公報）

（五）竹の開花と天候との關係

既に述べたるが如く竹類の開花は決して不規則に起るものにあらず各或年代を隔てゝ開花期を反復し或は地味天候の影響を受け易き種類は明瞭に開花期を示さゞれども然も同一の竹林に就て觀るときは其開花は決して不規則に發するものにあらざるを知る又山野に自生せるものゞ雖も尚且つ東西遠隔の地に於て同時期に開花せるを確められ得ることあり曩佐藤林學博士の言によれば三十一二年の頃伊勢國鈴鹿山中に篤竹の開花結實したることありゞ然れは山野に自生せる笹類も亦其開花決して不規則に發するものにあらざるを知ることを得べし

要するに竹類の開花には地味天候か多少影響すべきことを認め然る上に穩當に考ふるときは竹類は一般に數年又は數十年最も長きは百餘年に週期的に開花期を繰返せるものなるか或は少くとも竹類は一般に永年月を隔てゝ開花期を有するものなるは何人も疑はざる所なり

故に吾人は是を基礎として本問題を解釋せんとするに當り先づ傳染性を帶べるを以て害菌或は害虫による一種の傳染病にあらざるなきやは最初に想像する所なり然して開花中には往々黒穂菌に侵され居るものあり或は一種の小蜂の寄生せるものあれども皆然りと云ふにあらず即ち菌類虫類の侵害を被らずして開花するを普通とす畢竟竹類の開花は菌虫等の寄生に寄る傳染病にあらざることを認めさるはなし

然れは温度日光濕氣等の天候上の要素の過不足によるにあらさるか而して天候か週期的世界全般を支配せるものにあらさるか否やを知らんとするに當り吾人は氣象學者ブルヒナー氏の說を參考せんとす氏は諸種の研究及材料によりて氣候は凡三十年を隔てゝ週期あることを唱導せり然れは淡竹の開花は恰も此二回週期毎に發するものにあらさるやを思はしむ尚熱帶地方の竹類の一種には凡そ三十年を週期とせるものあり然れども天候週期說は現今一般に的確なるものと認めさるを以て殊に我國の如き氣候上複雜なる原因を有する地にありては此氣候週期認全く認むべからず又印度に於ける竹類の開花は温熱乾燥が原因となれるを稍認めうれども我國にては全く認め難きを確め得たり

次に濕氣は如何にと云ふに一年中最も高熱にして植物が濕氣を渴望する時季たる八月の降雨量及温度等と竹類の開花年と相對照するときは結局温度濕度日光等天候上の要素は竹類開花の原因と認むる能はずと決定

せさるべからず

竹類開花期は週期にあることは既に第三章に述べたれども正六十年を意味するにあらず唯其開花は常に起るものにあらずして長き期間を隔てゝ起るものなりと主張するものなり勿論一二の適合せざる實例あるは生物の通例にして竹類は普遍的開花期の週期的なるは到底疑ふべからざる所なりとす

（六）竹林肥瘠と開花との關係

普通植物の開花を促す狀態として温度日光濕氣等の過不足の外土壤中の營養分の欠乏が亦重きを爲す者なり故に園藝家は最初其枝葉の發育を盛にし適當の時期に至りて頓に營養器官の發育を妨けて生殖器官の發育を促し巧に多くの花蕾を發せしむ殊に鉢植と爲して根を器中に纏綿せしむるは枝葉を發達せしめずして矮形なれと却て多くの花芽を發せしむる利あり故に竹籔の如き多數の根莖地下に錯雜葡萄せるものにして年々歲々新根莖を發生し益纏綿重疊するときは終に新根莖を伸長すべき餘地なく同時に土壤中の養分欠乏し終に竹稈の開花を見るに至るものなるやは吾人が最初に想像する所なり然れとも竹類の根莖が地下に發育する狀態は決して上に想像するが如きことなく全々反對にして各竹種畧固有の繁茂に達する時は其以後は新根莖及ひ新稈の發生を減し老根莖老稈は枯死腐敗して絶えず新陳代謝するものなり故に竹林は天然の瘠地に設けられ加之全く初より施肥することなきときは該竹林養分の不足を感じて良稈を生せずと雖も其結果開花原因を致すものとは認め難し且つ同種の竹の開花は本邦各地殆ど同時期に發するのみならす世界各地に分布せるもの皆本邦と同時に開花せる事實は東西相呼應せるか如ければなり又竹林の開花竹林繁茂の結果土壤中の養分欠乏を來すに因ると爲すときは開花は古き密林に於てのみ之を見るものにして林齡少き疎林に於ては全く之を見さるか或は極僅少の程度に於て開花すべき理あらすや然るに事實は反之淡竹黒竹等其新舊疎密の別なく開花せし事は世人の皆目擊する所なり又北海道膽振國に移植したる淡竹は明治二十三年に移植し三十三年に既に百坪以上四五百稈に蕃殖したるものなり然るに近年内地の各地淡竹林に開花するや相應して開花し三ケ年に渡り枯死したりと之れ即ち幼齡にして疎なる竹林が老齡なる密林と同時に開花したる實例の一なり又歐米各地に移植せられ氣候地味共に相異る地に生育せるものか土地の肥瘠施肥の如何に關せず世界各地一樣に竹の開花を見たるは明かに竹の開花は土地の肥瘠に原因せざるを證するものなり又京都府技師の試驗研究によれば施肥により開花を促進しうべき影響少しもなきが如しるもものに非ずと爲し其開花を見るに至りたる竹林に施肥するも其後數年間相次で發する開花を防止すること能はざるものなり

（七）竹の開花と火山噴火との關係

天候及養分の如何を以て竹類開花の原因となすこと能はざるは前述の如し而して竹類開花が普偏的にして且つ週期的なるが故に火山噴出の週期的なるものとの間に何等の關係なきやを疑はしむ殊に淺間山噴火の年代が約六十年毎に噴火せる事實を淡竹苦竹の開花の年代亦六十年毎に近きを見て兩者畧々一致せるものを見出せり而して我邦各地に散在せる火山の噴火は地質雜誌二百五十五號に記せる如く六十餘年の週期を認めらるを以て淺間山の活働期は本邦全般の火山活働期を代表せるものゞ見ることを得るか故に此等の間に疑を容るゝ所以なり

然れども火山噴氣の植物に及す利害は噴中に合まれたる瓦斯の性質によるものにして假令有害瓦斯と目做さるゝ硫化水素の如きも或一種の植物（クロマチュムワイシ）の如きは硫化水素中に生育し是瓦斯なきときは枯死するものなり、又火山の噴火週期なるものも唯淺間山噴火の年代に稍見べきものにして本邦全土の火山噴火の年代を總括して見るときは未だ疑ひなき能はざるなり殊に苦竹淡竹の開花が火山噴火の週期に合すとなすも他の時期に開花する竹類に至りては說明することは能はざるべし要するに竹類の開花は火山噴氣物の刺擊によるものと說明する能はざるなり

林野行政事務の概要

（曾山子寄）

縣下林野の總面積は約百十餘万町歩にして殆ど全地の八割三歩を占む由來本縣の位置たる本州の中央脊梁に中り西方は所謂日本アルプスの峻嶺を以て圍らし其他山岳縱横に奔馳し高岳峻峰到る處に聳立す有名なる木曾、天龍、千曲、犀の四大河及釜姫の各流域は殆ど全縣下に渉り管内林野の大部分は其水源に當る地實漠たる林野の約四十餘萬町歩は御料と國有とに屬し他の約六十餘萬町歩は公私等　民有に屬す是等の民有林野は現今概ね荒廢の狀態にありと雖然かも年々の生産額二百二十萬圓を上下す地勢山河の狀況前記の如くなるを以て本縣に於ける林野行政は一面に於て國土の保安に對し最も深き注意を拂はざるべからず往昔交通の發達今日の如くならす山林制度比較的嚴なりし時代にありては濫りに斧鉞

を加ふるものなく隨て美林綠野に富みたりしと雖維新以降制度の弛緩と共に漸次交通の發達するに伴ひ到る處の林野は濫伐に委せられ之が保護恢復に意を傾くるもの少なく年を經るに隨ひ曾に用材共幷に燒料材に不足を感するのみならず荒廢の結果偶々豪雨に際すれば直に水害の因を爲すに至る本縣夙に玆に見る所あり己往十數年來多額の經費を投じ鋭意民林の荒廢恢復に努めつゝあり本縣の林野行政機關は從來農商事務中に屬したりしが中頃林野係と稱し明治四十年中獨立し一課を爲し林務課と稱するに至れり爾后漸次職員を增加し現今にありては奏任技術員二名判任屬一名技術員十五名雇及看守二十一名總計三十九名を配置し各擔任事務に當らしめつゝあり

更に本縣に目下執りつゝある林野行政事務の梗概を叙述すれば左の如し

一、公有社寺有林野の整理監督

縣下の公有社寺有林野の臺帳面積二十六萬餘町歩此推定面積少くも三十八万町歩以上とす故に之が整理監督は本縣林野行政中最も重要の事業に屬す縣は明治三十四年以來技師二名を特設し專ら其整理の奬勵指導に當らしめ本年度より更に技手二名を增置し一般に於ける林業奬勵の外公有林野造林奬勵補助幷に部落有林野の統一整理に就き十分の奬勵指導を爲さしむる事とせり

此公有林野の内經營管理其宜敷を得第五回内國勸業博覽會、長野、愛知、群馬等の府縣聯合共進會に於て表彰せられたるもの南佐久郡大澤村を始め十四ケ村に及べり

二、縣有林經營

民有林の造成奬勵と仝時に他面に於て縣自ら直接林野を經營し民林經營の模範を示し一方確乎たる縣有產を設定し兼て縣用土木用材及薪炭材の備林となすの目的を以て縣林七千五百町歩を設置するの計劃を立て明治三十八年以來林地の買入に着手し今や二十ケ所其面積約四千町歩の買入を了し漸次造林を行ひつゝあり此計劃に依るときは三十一年目より收入は支出に超過し二百十二年目には累計純益二十八億三千二百十六圓を得る見込あり

三、保安林調査

本縣の林野は前述の如く概ね荒廢に歸し傾斜亦多くは急峻にして雨水の貯蓄力乏しきを以て一朝霖雨に際會するときは忽ち洪水氾濫し貴室の土地を流亡浸害し生產上幾多の損害を來す事稀なりとせず今に於て之が荒廢恢復の途を講ずるにあらざれば被害の及ぼす處單に縣内に止まらず延ゐて隣接各縣に對し亦多大の被害を與ふるに至る水を治めんとせば須らく保安林編入の爲に組の調査班を置き各署部を止制限地を調査し夫々必要に應じ處分をなす事とし今日迄に編入せる保安林は箇所に於て六千七百三十五ケ處面積に於て六萬七千八百三十七町歩及べり然かも猶縣下林野の現狀と年々の水害に鑑み一層此調査を促進するの必要を認め本年度より更に調査を培加する事とし之を四組となし夫々調査に從事せしめ來る明治四十八年度迄には縣下全體に對し之が調査を結了し處期の目的を達する見込なり

四、植樹奬勵事業

保安林並に一般民林の荒廢恢復の爲め植樹苗を與ふるを以て足れりとせず別に良好なる樹苗を供給し双方より之を奬勵するの必要なるを認め去る明治三十二年以來縣の經營直及林業指導費に殆ど四百圓を支せり（以上郡勢一班による）

し苗甫看守各一名宛を配置し杉、扁柏、落葉松、赤松、欅其他有用樹種の苗木年々約一千万本宛の養成をなし無償を以て之を市町村其他公共團体幷に個人の造林者に下附する事とし己往十二年間に約一億三千餘萬本の交付をなしたり此間の經驗に依れば當初にありては百方勸誘するにあらざれば下付を受けて造林するもの多からざる狀況なりしが漸く近年に至り一般の造林思想著しく發達し下付出願の數は常に苗木實數に倍加し供給は到底需用を充たす能はざる盛況にあるを以て今后益々本事業擴張繼續の要あるを認む

佐渡の林業

T　H　生

佐渡は面積五十六方里ありて内

山林（有租地）　一九、五〇九、八町

原野　九七七、八町

保安林　一七二、一町

を有し他に六千二百二十八町の御料林あり然して最近林產物の產額は實に左の如し

	四十二年	四十一年	四十年
用材	二〇三四四㍍	二四一三二	一二二一〇
竹材	六四一八〇㍍	四九八二五	七三五〇〇
木炭	一、〇二三、八四〇貫	一、〇二八、〇〇六	九六九、八九九
石	四、〇四〇個	三、三一〇	三、三六〇

然れども人口十二萬中斯業に係る者纔に二千四百餘人然も之を本業とする者僅々四百に充たざるなり

目下郡の事業としては杉苗養成に六百圓（四十二年より五ケ年繼續）郡林經營に千二百餘圓（三十七年度より十五ケ年繼續）を投じつゝあり尙昨四十四年度に於ける竹林調査及林業指導費に殆ど四百圓を支せり（以上郡勢一班による）

總じて林業思想は未だ幼稚なるものにて殊に共有林の如きは俗に無山（所有者なき意）と稱し濫伐の弊あり然れど近年苗木養成に心を傾くる者續出し且つ一部青年會の如き殖林の擧益多からんと

因に帝室林管理局佐渡出張所は河原田町に縣立種苗養成所は金澤村にあり

文苑

梅花小觀

竹　軒

◎江南の梅信既に老を告げ雪にこもる木曾の山谷今や漸く一輪づゝの暖かさを加へんとす此時に當て聊か梅に關する文學的回想を敍するも亦一興ならずとせず

◎我國古は梅花を以て花の隨一としたるは梅花を指して單に花と云ひしを見て知るべし『難波津にさくや此花』と歌へる王仁の歌は之を證す桓武遷都の初梅樹を紫宸殿前に植ゑらる承知中此樹枯死せしを以て仁明天皇再び梅を植ゑつぎ給ふ天德中更に災に罹るを以て村上天皇の應和三年櫻樹を栽え給ひぬ知るべし左近の櫻と云ふもの古は梅樹なりしを斯くて其頃より花王の地位は櫻に奪はれ花とのみ云ひて櫻を指す事となりぬ

◎羅は梅の古字也又楳に作る音は皆バイ。マイ。又はメなり此漢音メの上にウが添はりてウメとなりしなり恰もウマ（馬）が漢語バ（馬）より來りウを頭に加へたると一般なりウは發聲にて音咏なし朝鮮語にても梅をバイと云ふ漢音其儘なり

◎萬葉には烏梅。有米。など書き皆ウメと讀む然るに和名抄に至て牟女と書けり蓋しムは鼻音に發すればウと音甚近きを以てウメを又ムメとも書きしなるべきか

◎鶯宿梅の故事は今更ながら大鏡に依りて一渡り來歷を說かむ天曆の御時淸涼殿前の梅樹枯れしかば藏人の雜掌をして良き樹を搜し求めしむ雜掌西の京に至り一民家の紅梅の殊に美しきを見出て掘り取りしにこの女あるじ短冊に歌かきて木の枝に結びつけぬ雜掌は何心もなくてやをら內裏に持て參りしを主上何ぞとて御覽じければ勅なればいとも畏し鶯のやどはと問はゞいかゞ答へん

とあり主上怪しく思召し何者の家ぞと尋ねさせ給ひければ之ぞ貫之の娘の棲家なりける。されば主上も口惜しく思召しけりとぞ

拾遺集によれば其紅梅にはまさしく鶯の巢くひたるなり詩歌の美德君臣の和合豈千歲の美談ならずや

◎陸奥の豪雄安倍貞任が楚囚となりて京都に上りし時大宮人試に梅花を師して名を問ひしに貞任言下に歌ひて曰く

吾國の梅の花とは見ゆれども大宮人は何といふらん

と思ひきやむくつけき荒えびすの口より此優にやさしき三十一文字を聞かんとは大宮人まさに愧死すべし

◎源平生田の森の合戰に關東の武人梶原景時咲き亂れたる梅花一枝胡籙にさし添へて我子の爲に奮戰したる風流は何にたとへん

源平盛衰記に叙して曰く『花は散りたれ共句は袖にゞ殘りける』と豈管に袖のみならんや芳を百世に流すといふも可なり

◎三國の末吳の陸凱其親友范曄に梅花を寄する詩に曰く

折レ梅逢二驛使一、寄與隴頭人、江南無レ所有、聊贈一枝春。

と武藏坊辨慶曾て播州須磨寺の梅の制札を書す其文に曰く。此花は江南然き所一枝を折らば一指を剪るべしと是れ正に陸凱の詩より來る荒法師の風流亦欽すべし

◎錦字箋に曰く隋の趙師雄、羅浮に遷る一日天暮し日暮松林酒肆の旁舍に於て美人の淡粧素服出でゝ迎ふるを見る師雄共に語言す極めて清麗にして芳香人を襲ふ因りて與に酒家を叩き共に飲む師雄醉臥一覺むるに及びて起て見れば大梅樹下にあり翠羽啼啁す相顧れば月落ちて參橫す惆悵し已まずと

梅花に仙女を配するは此故事による

◎疎影橫斜水淸淺。暗香浮動月黃昏の宋の林和靖の警句なり和靖性恬淡右を好み榮利に走らず足未だ城市を履まず又娶らず子なし西湖の孤山に住し梅花を植え鶴を蓄ふ常に曰く鶴を子とし梅を妻とすと其梅を絕愛したる事知るべし高士梅を愛す誠に佳なる哉蕉翁の『梅白し昨日や鶴を盜まれし』の句は此に源す

◎雪滿二山中一高士臥、月明林下美人來は明の高靑邱の名句とす正に和靖のと併せて梅

詩の二双絶とすべし山中の高士林下の美人誠に慕ふべくして近くべからず愛すべくして狎るべからざるは此花。

◎天平二年正月大宰師大伴旅人卿任地に於て梅花の宴を開き人々をして梅の歌を詠せしむ一人一首總て三十二首蓋し梅花宴の嚆矢なり主人の歌に曰く

我國に梅の花ちる久方の天より雪の流れくるかも

山上憶良の歌に曰く

春されば先づ咲く宿のうめの花ひとり見つゝや春日くらさむ

◎一代の才人在五中將は梅の花盛に月面白き夜五條の第に昔を慕ひて情緒綿綿泣いて一夜を明かし歌うて曰く『月やあらぬ春や昔の春ならぬ我身一つはもとの身にして』と人生の離合運命の數奇に感じては花にも亦涙を灑ぐ熱狂詩人の情憐むに堪へたり後人和して歌ふ者多し

梅の花誰が袖ふれし匂ひぞと春や昔の月にとはゞや　通具

梅が香に昔をとへば春の月こたへぬ影ぞ袖にうつれる　家隆

梅の花あかぬ色香も昔にて同じかたみの春の夜の月　俊成女

◎貫之は一世の名匠なり初瀬に詣づる毎に一家に宿す所謂定宿なり後久しく訪れず程經て至りしに宿主怨み言云ひければ貫之傍の梅花を折りて歌ひて曰く

人はいざ心も知らず故里は花ぞ昔の香に匂ひける

と主人即ち音解けたりとなん若し此歌を正言せば如何愈〻主人の不興を買はんのみ而も諷諫婉柔人心を感發せしむるは實に詩歌の妙なり

◎石川丈山は枕頭三尺劒瓶裏一枝梅と詠じ伊達政宗は征韓の役一梅を齎し歸り後園に栽へ吟じて曰く

絶海行軍歸レ國日、鐵表袖裏ニ芳芽一、風流千古餘二清操一、幾度間看異域花

丈山は風流を翫びて猶武を忘れざるもの獨眼龍將軍の吟懷は眞に閑日月を存する者と云ふべきか

◎百花魁といふ異名は說く迄もなし文を好めば花開き學を廢すれば開かずといへる晉武の故事によりて好々木といふなる說も菅公の潰詠によりて西天に飛び〻飛梅の語は唯文學的にのみ解すべし清少納言は殊に紅梅をめで樂翁公は夜更けて事とふ罪なきものに梅が香を數へぬ斯樣の事書き立ればの際限あらじ今左に梅を詠せる和歌俳句の佳なるものを記憶の儘に擧げんか

百數の大宮人はいとまあれや梅をかざしてこゝにつどへる　友則

花の香を風の便りにたぐへてゞ鶯さうふしるべにはやる　家隆

青柳を片糸によりて鶯のぬふてふ笠は梅の花がさ　儀馬樂

我宿の梅の立枝や見えつらむ思の外に君が來ませる　兼盛

はつせのや里のうなゐに宿とへば霞める梅の立枝をゞさす　契沖

とめこかし梅さかりなる我宿をうときと人は時にこうよれ　西行

大空は梅の匂に霞みつゝくもりもはてぬ春の夜の月　定家

梅が香にのつと日の出る山路哉　芭蕉

うぐひすが梅の小枝に糞をして　鬼貫

二もとのうめに遲速を愛すかな　蕪村

しら梅や墨がんばしき鴻臚館　同上

うめ散るや螺鈿こぼるゝ卓の上　同上

青梅にまゆあつめたる美人かな　同上

梅窓の下試に此等の諸篇を取て吟詠せよ妙味自ら泮々たるものあらん

追懷

記乃志多

西歐の詩人ゲーデ曰く『希望は單一にして追懷は複雜なり』と然り而して生等に單一なる希望を辿りて木曾の地に在る玆に三星霜復雜なる追懷の情は胸奥を來往して走馬燈の如し、昨日は新入生として迎へられ今日は母校を去らんとす玆に於てか烏兎匆々の語痛切に感せらるゝや大なり

日は長閑に櫻花此處彼處に咲き初めたるの時三三五々打ち連れ立ちて老櫻樹の下に足を止め花を賞したる關山公園の春、月は皎々として滿山の紅葉を照し興は正に酣にして何時果つべしとも思へぬ盛大なる觀月の會を催したる小丸山の秋、昨日まで花と見し山の梢も何時しか夏木立と茂り合ひ矮舍の暑熱流汗の玉なすを曇ゆるの時杖を城山に曳くに水は纖々として奇巖の間を流れ、餘沫飛散して衣巾を濕しとちの老樹は亭々として涼風を送り凌き難き暑を忘れしめた

る權現瀧の夏、駒ケ岳の山嶺に白雪の帽を頂き吹く風漸く寒く六花片々見る見る中に降り積りて滿目皚々朔風颯々として吼へ終日舍窓を音つれて止まず爐邊の談笑一入賑やかなる寄宿舍の冬一つとして舊懷の種ならざるはなし……

而してかゝる深き思出の搖藍を顧るの時一種切實なる感概に耽らざるを得ず「たつた今まで御互に彌次られたものだが、斯うなると又何だか名殘惜しいやうな心持ちがするね』『うゝだ三年は長かつた、けれども今から考へるとまるで夢だ、上級生がぐんぐん卒業して行くのを見たときは自分達は何時生徒と云ものから蟬脫する事が出來るかと思つたが今になつて見りや却て呆氣ない』とは今にて生等の間に交換さるゝ話柄一たり、然り而して生等は此思出多き木曾名殘惜しき寄宿舍朝夕同し鍋の飯を喰ひ一蹇一歎を共にしたる學友、生來の豚兒をして成人せしめたる師恩海よりも深く山よりも高き母校、先生を後にして近く去らんとす……思ひ玆に至つて筆意整はず……

時に聲あり、眼を開けば福嶋驛を後にして去らんとする滊車の笛なり、眼を閉づれば正に之れ生者必滅會者定離を意味する斷腸の調一笛の聲韻更に心を痛ましむる哉噫

隨感

頓一馬

△赫々たる夕日に背いて道を急いで見よ必ず吾人の影は長く地上に横はるであらうりの時己の影法師の頭を踏んで見よ足は影のあつた所へ達するが影は又一段向へ飛んで仕舞ふであろう

吾人の欲望も亦然り、一つの欲望が達すれば又新に一つの欲望があらはれる、又一つ又一つ遂に止む所を知らない、吾人は確固たる克己の精神を以て私慾なる大賊を心中から放逐しなければならぬ

△壁に一つの隙間があると蚊虫寒風などが遠慮なく入り込む、人生に隙は大禁物である一度衛生を怠つてうこに一條の隙を見せたならば恐るべし忽ち病魔の纏ふ所となる職務を勉勵するにあたつて一つの隙を見せたならば忽ち怠惰　誘惑なる虫が乘り込んで遂にに墮落の深淵に陷らしむるのである

擊劍の試合に於ても然り、隙があつたならば忽ち『オ面ッ』一本頂戴と言ふ事になる互に隙を見て打ち込む、隙もくそも知らん奴は頭でも肩でも首でも足でも柱でも壁でも手當り次第叩き散らす、滅茶苦茶である時々は見物人の頭でも何でも叩くから滑稽である、これは冗談であるが何しろ有形の隙は兎も角無形の隙は堅く之を閉塞して以て病魔誘惑等の來襲を妨がねばならぬ

△『動あれば反動あり』これはニュートンの運動第三則である　須く吾國民は動あつて又反動なければならない反撥すべし、大に反撥して病魔誘惑を遠く刻ね退くべし、然るに今の世の中にはまるで柳の糸然たる奴共が多い、彈力のない、あつちへフラッこつちへフラッ味噌も糞も一所に掻き込むと云ふ輩が多くなつては國家の前途恐るべし、豆腐を火箸で毆ると反撥はあつても見苦しく壞れる、こんな反撥では駄目である今つと獰猛な砲火の爆發みた樣な奴でなくてはならぬ、只無闇矢鱈に反撥せず毅然たる濾鋼を身の周圍に張つて長は入れ短は何處迄も反撥擊退しなければならない

戰爭に於ける反撥、抵抗の必要は今以て愚生が喋々する迄もない

通信

○長野便り

曾山子投

曾門會成る　我が木曾の校門を出で〻目下當市及小縣下高非等に在る同窓生よりなる曾門會は去る一月二十七日市下西洋館に於て其の發會式を擧ぐ來り會するもの次の十有六名順序として余が發起者を代表して開會の辭並に吾人の責任と抱負とを述べ續いて會則として三四の大綱を議定したる後は當館獨特の洋食と美酒に加ふるに情誼溢れん許りの兄弟同志！　陶然として語り合ふ所悉く百年の知己！　中には校門を出で〻より八九年目にて再會するなどありて互に見違へん許りに變りたる態度を上げつ貶しつ往事を追懷して思はず吐く虹の如き氣焰も何となく嬉しく感せらる又水入らずの間柄ならでは能はざる所！　聽て一人一齋の

明治四十四年六月十四日第三種郵便物認可

動議成立して各々自慢の隠し藝を演ず松前新内あり詩吟新体詩あり狂歌あり朝鮮土産の情歌あるかと思へば時代後れの磯節もあり又追分の恍惚せしめて水を打ちたらんが如きあり林住羅經などと云ふ二十世紀的林學の精を讀破したる陽氣にして人をして抱腹せしむるあり思はず酌み交す幾十杯興凝つて『中乘さん』の合奏數次館棟爲めに飛ばんとす、嗚呼此一夕のまどひ吾人に與へたるインスピレーション果して幾何!!

來會者一人一藝の順杉本貢、野知里愛助、中村豊治、小池一郎、中田辰雄、金井澄水、高樋博、兒野榮

客員西澤靜人、原田義治、長谷部兵治、若林遊龜雄、上條嘉一郎、宮下信一、森正次杉本純平

而して特筆すべきは夜來の積雪尺餘乃至二三尺に及びたるに遠路來會せられたるは次の二氏なり

小縣郡上田町より杉本貢

下高井郡中野町より兒野榮

又來會の筈なりしも事故又は病氣の爲め欠席せしは上田小林區署齊藤正雄、大林區署坂本忠治、縣廳木村音次郎、大林區署澤田貞次郎等の諸氏なり

雜報

○學校便り

○校友例會　二月廿二日午後零時四十分より講堂に於て校友例會を開會す、本日は例に依て來年度役員選擧あり（役員は任命を待て發表すべし）終りて會員諸君の演説あり最后に江畑會長より選擧成績の發表あり續て辨論の必要を説かれ將來益々辨論の發達を希望する旨を述べられ閉會したるは午后四時なりき

本日の登壇者及演題は次の如し

農村脱走と青雲の志　小崎次郎君

齒牙の衛生　水野勘一君

所感　石坂秀次君

人工推蕾栽培法　神作四郎君

所感　關谷靜夫君

白樺に就て　長谷部眞一君

朝鮮國有林の將來　原貴一君

スケートノ効用　吉澤英雄君

一日主義　小羽根安次君

シルクハット　川合清行君

怒力と誠實と機會　佐藤先生

印度の昔話　小松先生

◎講談會　三月三日正午より松本講談師招き家扇橋氏を聘し寄宿舍樓上に於て講演を請ひ講談三番午后三時半修了せり

◎學年試驗　三月六日學年試驗時間割發表せらる即ち十五日開始廿三日終了すべし

○叙任辭令

任陸軍歩兵小尉　帝國林野管理局技手陸軍歩兵軍曹　奥原吉右衛門

仝上　森林主事陸軍歩兵軍曹　瀬在實

給九級俸

仝上　青森大林區署林務技手　小藤作四郎

仝上　小林桂一郎

任林務技手給十級俸　熊本大林區署　山下藤一

任林務技手給十一給俸　宮城大林區署森林主事　原雛助

任森林主事月俸十二圓給與　高知大林區署　藤田要吾

仝上　宮澤嘉一

○會費領收報告

金七拾錢　嶽野利雄

金參拾六錢　大脇又衛

○編輯部より

謹白　月日に關守なく不肖生等乏しきを編輯の大任に承てより既に一星霜號を重ぬること二十有九誌上何等見るべきなく平〻凡々諸氏の滿足を買ふ事能はざりしと雖も幸にして責を塞く事を得たるは實に顧問先生始め校友諸氏の熱誠なる御盡力に依る所と多謝仕り候茲に無責任なりし罪を謝し御暇乞の辭に代へ申候

編輯部員惣代

木下稗藏

角田久福